

アメリカの禪センターを訪ねて

—— 故前角博雄老師追悼・巡礼の旅 ——

横浜善光寺留学僧育英会理事

東 隆 眞

四十年、着実な布教

日系以外に禪を伝える

去る五月十五日、曹洞宗開教師・前角博雄老師は、帰国中、東京、曹洞宗桐ヶ谷寺（黒田純夫住職）で急逝した。示寂の七日ほどまえ、桐ヶ谷寺で老師みずから開創し活動しているアメリカ各地の禪センターへ案内するからぜひ訪問してほしいとの要請をうけ、その日程の打ち合

わせをすませたばかりであった。私は、実弟の黒田武志師（横浜市、曹洞宗善光寺住職。横浜善光寺留学僧育英会理事長）とともに訪米の途についた。黒田師はかつて開教師として渡米し、前角老師のもとで指導をうけていた。このよう
なわけで、七月二十八日から八月六日まで、生

前の前角老師とのお約束を果たし、老師を追悼し、遺跡を巡礼する旅となった。

北米開教は、故内田晃融師によれば、明治三十二年（一八九九）西本願寺が在米同胞の懇請によって同派の日本人僧侶を派遣したのが発端とされる。曹洞宗は、大正十一年（一九二二）磯部峯仙師がロサンゼルスに曹洞宗北米仏教会を設立したのが第一歩だと聞いている。その後、多くの先人たちが幾多の困難を克服して、着実に布教、伝道の成果をあげてきた。いまでも情熱に燃える開教師たちによって、血のにじむような努力が継続されている。

前角老師は、昭和三十一年（一九五六）ロサンゼルス禅宗寺駐在布教師として渡米した。日系人への布教よりもアメリカ人対象の開教に重点をおいた。老師はアメリカ国籍を取得してアメリカ人となり、四十年のあいだにロサンゼルス禅センター（開山は黒田白純老師。仏真寺。

現在の住職はグラスマン・徹玄ニテツゲンニ老師）、禅マウンティン・センター（開山は志保見道雲老師。陽光寺。現在の住職はテツゲン老師）
へ以上、ロサンゼルス）、禅コミュニティ・オブ・ニューヨーク（前角老師開山。禅真寺。現在の住職はテツゲン老師）、禅マウンティン・モナス トリイ（前角老師開山。道真寺。現在の住職はローリー・大道ニダイドウニ先生）へ以上、ニューヨーク）、観世音サンガ・ワサチ・禅センター（前角老師開山。法真寺。現在の住職はマーゼル・玄法ニゲンポウニ先生）へユタ州）、禅コミュニティ・オブ・オレゴン（前角老師開山。地藏院。現在の住職はベイズ・澄禅ニチヨウゼンニ先生）を開創した。

このほか、フランス、イギリス、ドイツ、オランダ、ポーランドにも禅のグループ、道場がある。出家得度の弟子五十数人、授戒の弟子八百余人。嗣法を終了した高弟は男女数人にのぼ



ローリー・大道先生とともに



前角老師の墓塔に詣でて



禅宗寺で山下総監と記念撮影



UCLAに招きを受ける

る。前角老師が日系人社会以外の人々に伝えた
禅は、確実に継承された。

このたび、私どもは、ロサンゼルス禅センタ
ー、禅マウンティン・センター、禅コミュニティ
イ・オブ・ニューヨーク、禅マウンティン・モ
ナストリーの四カ所を訪問した。また禅宗寺(北

余薫を伝える仏真寺　ロサンゼルス

さて、ロサンゼルス禅センター(禅真寺)は、
ロサンゼルス市ノーマンデイ街九二三番地。ロ
ス空港から車で四十分ばかりの地点。前角老師
のアメリカ開教の本拠地である。およそ三十年
まえ歯科医院を買収して、老師や弟子たちの普
請作務によって改造した。およそ千八百坪。禅
堂、後堂寮(役員室)、隠寮、サンガ・ハウス、
会員住宅の五つの建物と二つのアパートメン
ト・ビルディングがある。だから、禅真寺とは

米開教総監部)、カリフォルニア大学、サラ・
ローレンス・カレッジも訪問した。

ここでは、ロサンゼルス禅センター(禅真寺)
を中心にその概況を報告し、私の理解したとこ
ろをまとめておきたい。

よんでも日本の仏教寺院のイメージはまったく
ない。クロダ・インスティテュート(黒田研究
所)の看板も掲げてある。

ここで道元学会を開き、道元禪師や禅の研究
を開いている。また『摩訶止観』や『伝光録』
の英訳本や、イリノイ大学のピーター・グレゴ
リー教授、カリフォルニア大学のウィリアム・
ボディフォード教授、プリンストン大学のステ
イファン・タイザー助教授らの仏教研究を「東

「アジア仏教研究」シリーズとして刊行し、九冊をかぞえる。

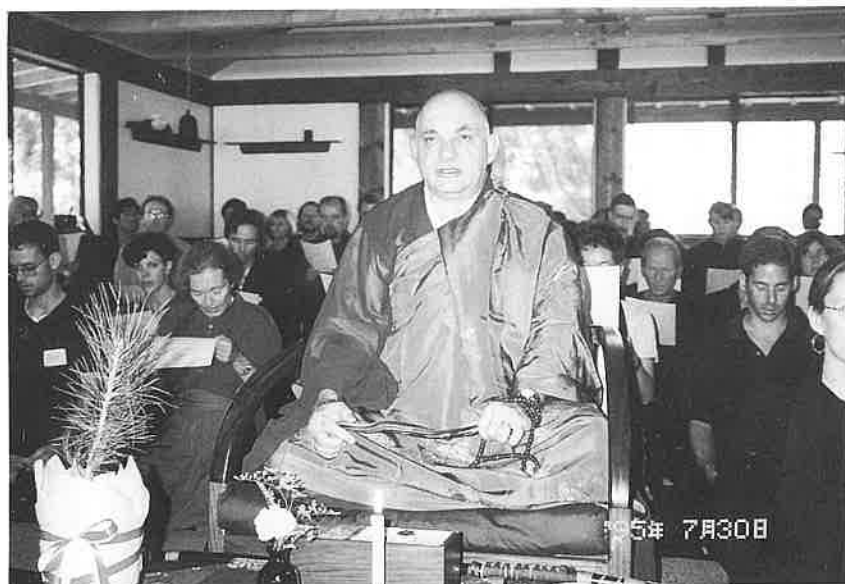
ロサンゼルス禅センターは原則として会員の会費によって運営されている。会員は三百人。三十五人の家族をふくむ会員が生活共同体を形成している。

任職は、前角老師なきあとテツゲン（徹玄）老師にひきつがれた。二十五年以上にわたって前角老師に師事し、公案の参究もすべて透過した。老師という称号は、このことに由来する。老師のほかは、先生（センセイ）とよぶ。テツゲン老師はカリフォルニア大学出身の技術者でグラマン社につとめていた哲学博士。ダルマ大師そっくりの風貌。住職代理は、ウイリアム・ニョゲン（如玄）・イエオ先生。ウエンデイ・エギョク（慧玉）・ナカオ先生は、前角老師の秘書役をつとめていた女性僧侶。ハワイに生まれ、父は日系二世、母はポルトガル人。ワシントン

大学を卒業し、同大学院を修了。いまはテツゲン老師の秘書役。昭和六十三年（一九八八）の夏、禅マウンティン・センター（陽光寺）で九旬安居して、首座をつとめたという筋金入りの禅僧である。頭脳明晰なうえに柔和で謙虚なものがしは印象的である。

ロサンゼルス禅センターの宗教活動としては、冬期の安居、毎月、二日ないし七日間の撰心会、毎週、初心者指導、毎日、坐禅およびその指導、毎週第二土曜日坐禅会、そのほかを定期的に行なっている。社会活動としては、毎月一回、地域の清掃を行なっている。おそらく、これらの定期的な活動は、今後も前角老師の生前とかわることなく継続されていくであろう。

ロサンゼルス禅センター・仏真寺は、前角老師の居住の本拠地でもあった。ここは老師の慈愛のやさしさにつつまれたふんいきが感じられる。老師の遺品のかずかずを、この仏真寺の一



禅マウンテン・センター、徹玄老師



首座法戦式のはじまり

室に保管、整理して、「前角博雄老師記念館(室)」
としてはどうか。

ひるがえつておもうに、曹洞宗北米開教の第一期は、宗門僧侶の旅行、短期滞在、視察などにはじまる。

第二期は、他宗教の開教(研究、出版などをふくむ)と並行して、相互の刺激と協力関係のなかでの(a)日本人開教師による日系人社会への布教ないし寺院建立と(b)アメリカ人社会への開教ないし寺院建立である。前角老師の前半生は、第二期(b)に位置づけられよう。

第三期は、アメリカ人僧侶によるアメリカ人社会への布教である。

第四期は、アメリカ人僧侶によるアメリカ人以外の人びとに対する開教で、このなかには日本人もおのずからふくまれ、そうなるとアメリカ人僧侶による日本人への布教という事態も生まれるであろう。アメリカから日本への禪の逆

輸入である。

前角老師の後半生の開教は、第二期を過ぎ、第四期へさしかかっているところまで影響を及ぼしていると評されてよいであろう。

もちろん、前角老師ばかりではない。しかし、前角老師の登場によって、禪はいつそう本格的にアメリカ人社会に定着する決定的な段階に入った。

東 隆 眞(あずま・りゅうしん)氏

昭和十年、京都府生まれ。同二十九年、大本山總持寺僧堂に掛錫。同三十四年に駒澤大学仏教学部禅学科卒、同大学院修士課程修了。現在、駒沢女子大学副学長、駒沢女子短期大学副学長、学長代理。駒沢学園女子中学・高等学校校長。文学博士。著書に『道元小事典』『瑩山禪師の研究』『曹洞宗』などがある。